

タイ・チャオプラヤ川下流域における 外来カワスズメ科魚類の生態的・社会的影響

平成 26 年入学
派遣先国：タイ王国
友尻 大幹

キーワード：生物多様性, 外来魚, , 報告書,

対象とする問題の概要

近年、東南アジアには、多くの外来魚が導入されている。その目的は、水産養殖やスポーツ、観賞魚等、様々である。これら外来魚は、すでに世界各国で報告されているように、多くの場合、導入された生態系において負の影響を有している。日本におけるブラックバスなどは、その有名な例である。東南アジアに導入された外来魚も例外ではなく、さまざまな影響を有している可能性が高い。また、東南アジアは、世界でも有数の生物多様性が豊かな地域であり、生物種のホットスポットとなっている。しかし、そのような側面とは裏腹に、急速な経済発展とともに、人口が急速に増加し、すでにそれに伴った環境破壊が叫ばれている。その中でも、外来魚の研究はほとんど行われておらず、貴重な生物多様性を有する東南アジアにおける外来魚問題の解決は急務であると言える。本研究では、このような外来魚問題解決にも繋がる、外来魚が有する生態的・社会的知見を記述する。

研究目的

これまで多く行われて来た外来魚研究は主に、生物学的なアプローチに限られて来た。しかし、東南アジア諸国のような途上国では、増加する人口を養うための重要なタンパク源となっている。もはや人々の生活には必要不可欠な存在となっているのである。このような場合、人間生活から外来魚を取り除くことは非常に難しい。つまり、生態系を守ると同時に、そこに住む人の生活も考慮していく必要がある。そこで、本研究では、これまで行われてきたような生物学的アプローチと並行して、人間生活にも目を向ける社会学的アプローチでも研究を行う。そこで本研究の目的は、外来カワスズメ科魚類のタイにおける生態的地位の解明、そして地元住民による外来魚の利用と外来魚導入による生活の変化の解明と定める。シクリッド科魚類は食用として最も有名な外来魚である。また、その定着が著しいタイ・バンコクを流れるチャオプラヤ川下流域を研究フィールドとして選定した。

フィールドワークから得られた知見について

今回は、社会学的なアプローチの研究の予備調査を主に行った。日本で作成した調査票をカウンターパートの先生と修正を繰り返し、最終的にタイ語のものを完成させた。その調査票を用いて、うまく機能するかテストを行った。



写真 1 調査票テストを行った家

テストを行ったのは、前回、生物調査を行った地点のひとつである。川沿いに隣接する伝統的な家（写真1）にお邪魔して調査票のテスト、そしてインタビュー調査を行った。この付近に住んでいる人はほとんどが、生まれた時からずっとそこに住んでおり、今回お邪魔した家は、家の前で養殖された魚を焼いて販売していた。

しかし、家の中では、魚の干物など、販売していないものも多く調理されており（写真2）、これらはインタビューによると、近所に多く点在するエビ養殖池の放棄池で育ったものを採集しているということであった。実際に使っている漁具も確認させていただいた。（写真2）完全に、外来魚のカワスズメ科魚類を対象にしたものであった。その対象は、自分の研究対象魚3種全てであり、また、その中でも観賞魚として比較的最近、導入・定着した *Cichlasoma urophthalmus* も含まれており、すでに現地で名前がついていた事には驚いた。

また、家が一部川に乗り出しているような構造の家で、毎日のように川をのぞき込んで生活されているので、かなり魚類の行動の観察もされていた。特に、今回気になったのは、*Cichlasoma urophthalmus* は攻撃的で他の魚たちを駆逐してしまうので、良くないやつであるという発言である。これは、外来魚関連の環境教育を受けた事がない人たちが直感的に思っていることであり、外来魚問題の本質にも触れるようなことかもしれないので、今後、さらに深くインタビューをする点でもある。

この調査地の周辺では、かなり急速に開発が進んでいるようで、前回、生物を採集しに来た時にはなかった建物が建っていたり、更地が増えていたり、もはや調査地を失うことすら懸念されるような状況である。

今後の展開・反省点

反省点としては、調査票のテストを行った家の経済状態は、バンコクの中ではかなり貧しい方だと考えていたのだが、家の中には大きなテレビがあったり、小学生の子どもが、スマートフォンでゲームをしていたりした。その地域の経済状態を、少し調べ直す必要があるように感じた。また、調査票はタイ語で完成させたのだが、現地の人たちがペンを使って走り書きをする字体を認識するのが非常に難しく、今後はより生きたタイ語の練習が必要になると思った。

今後の展開としては、今回のテストをふまえ、調査票をさらに改良し、そして調査票調査の本番へとつなげる。この際のサンプルの抽出方法等も検討しなければならない。また、生物学的なアプローチとしては、雨季・乾季を網羅した採集を完成させ、胃内容物や安定同位体比解析といった専門的な解析も随時、進めて行く。



写真2 カワスズメ科魚類の干物

来



写真3 漁具

よ